

「真まっ黒なクレーン」

ぼくの住すんでいるマンションから、お父さんがはたらいている船をつくる工場が見えます。工場には高さ五十メートルもある赤と白でぬられた大きなクレーンがいくつもあつて、今では呉くれのシンボルになっています。

ところが、お父さんの工場とは反対はんたいがわの海を見ると、小さくて真まっ黒なクレーンが一つだけ、ぽつんとこのされています。ぼくはこのクレーンが動うごいているところを一度いちども見たことがなかったので、もう古こくて使つかわれていないのだろうと思っていました。

ある日、蒲刈かまがりに住すんでいるおじいちゃんが家に遊あそびに来ました。ぼくはおじいちゃんとさんぽに出かけ、アレイからすこじままでやってきました。ぼくはおじいちゃんに、日本では、ここでしか近くで見ることのできないせんすいかんをじましました。するとおじいちゃんは、

「すごいよねえ。アレイからすこじまは呉くれのじまんだ。でもね、アレイからすこじまのじまは、せんすいかんだけじゃないんだぞ。」

と、言いいました。ぼくは、「えっ、他ほかに何なにがあるの。」と聞ききました。



アレイからすこじまにあるクレーン

するとおじいちゃんはだまって、あの真っ黒なクレーンを指さしました。

ぼくは、びっくりして、

「あの真っ黒なクレーンが、じまんなの？」

と聞き返しました。すると、おじいちゃんは

「そうだよ。あのクレーンは何と百年以上も

前に造られたものなんだよ。しかも、イギリス

製なんだ。海軍や呉の人たちの荷物のつみおろ

しに使われていたんだよ。呉の歴史にとって大事なものだから、今は使わ

れていないけど、大切に残されているんだ。」

と話してくれました。今まで知らなかったクレーンの歴史を知ったぼくは、

これまで何度も見てきたこの小さくて真っ黒なクレーンが、何だかいつもより力強くて、かっこよく見えてきました。

帰り道、ぼくは、おじいちゃんからアレイからすこじまの赤レンガ倉庫の

ことや、呉には日本遺産とよばれる大切なものが他にもたくさんあること、

そして横須賀、佐世保、舞鶴にも同じような日本遺産があることなどを聞

きながら帰りました。

